

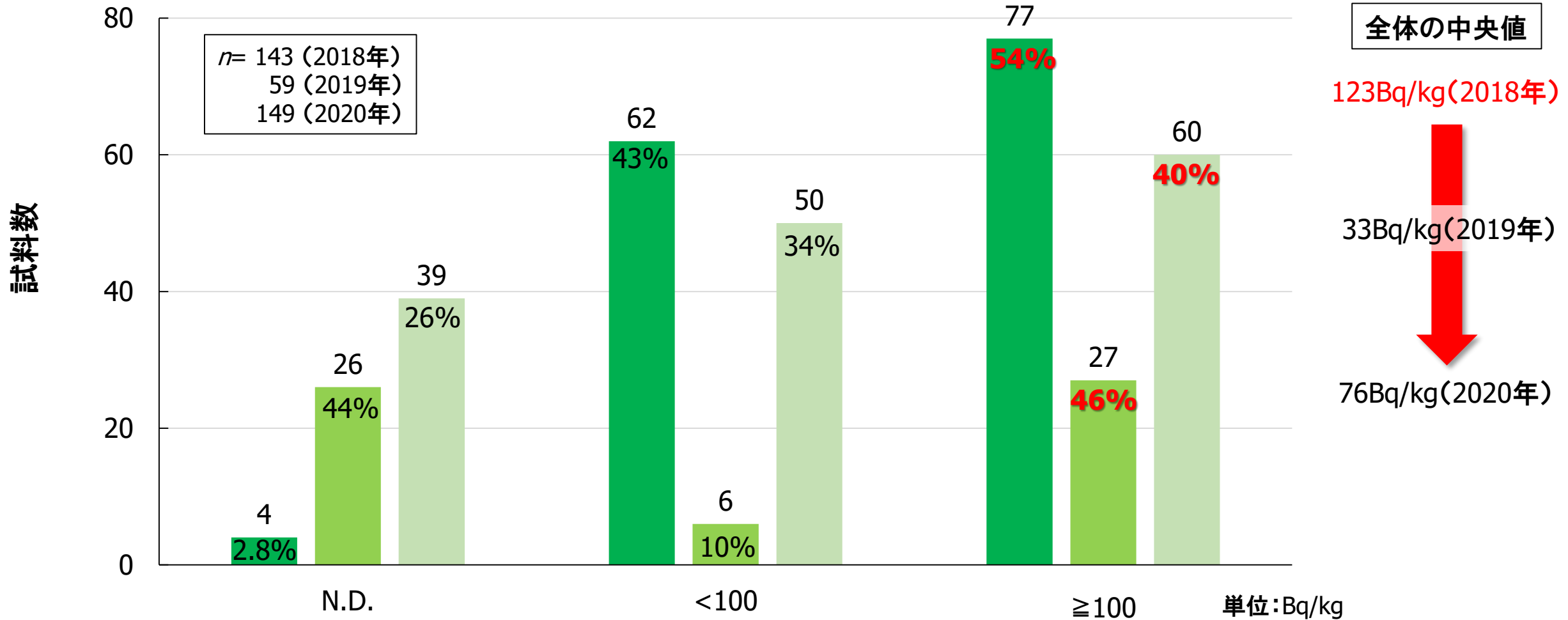
# 2018年～2020年春季に富岡町で採取された 山菜に含まれる放射性セシウムの分布について



福島県富岡町役場 健康づくり課 放射線健康管理係  
長崎大学・富岡町復興推進拠点(原爆後障害医療研究所 原研国際)

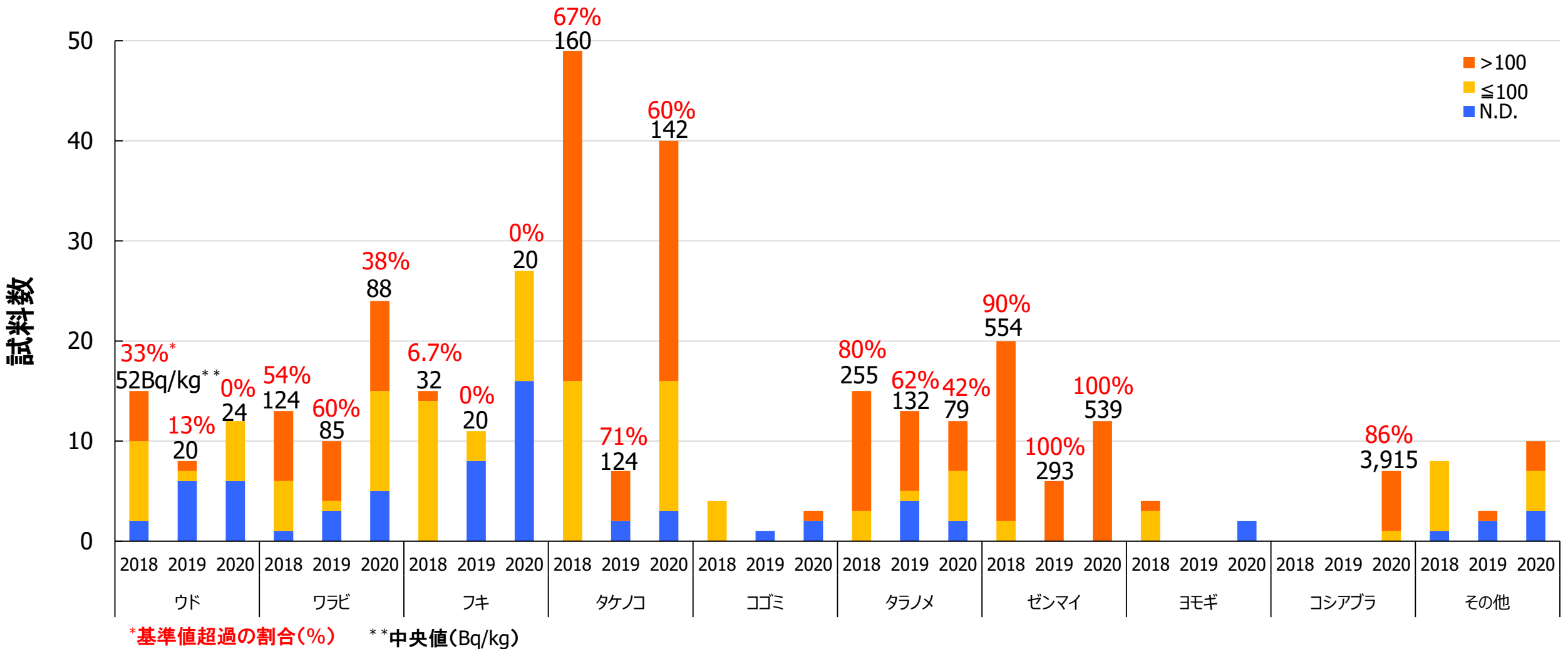
# 山菜全体における放射性セシウムの検出率

■ 2018春 (4-5月)   ■ 2019春 (4-5月)   ■ 2020春 (3-5月)



【評価】基準値超過の割合が低下傾向(5割→4割)となる一方で、基準値未満の割合が増加傾向(5割→6割)となっており、全体的には線量低減化の印象。

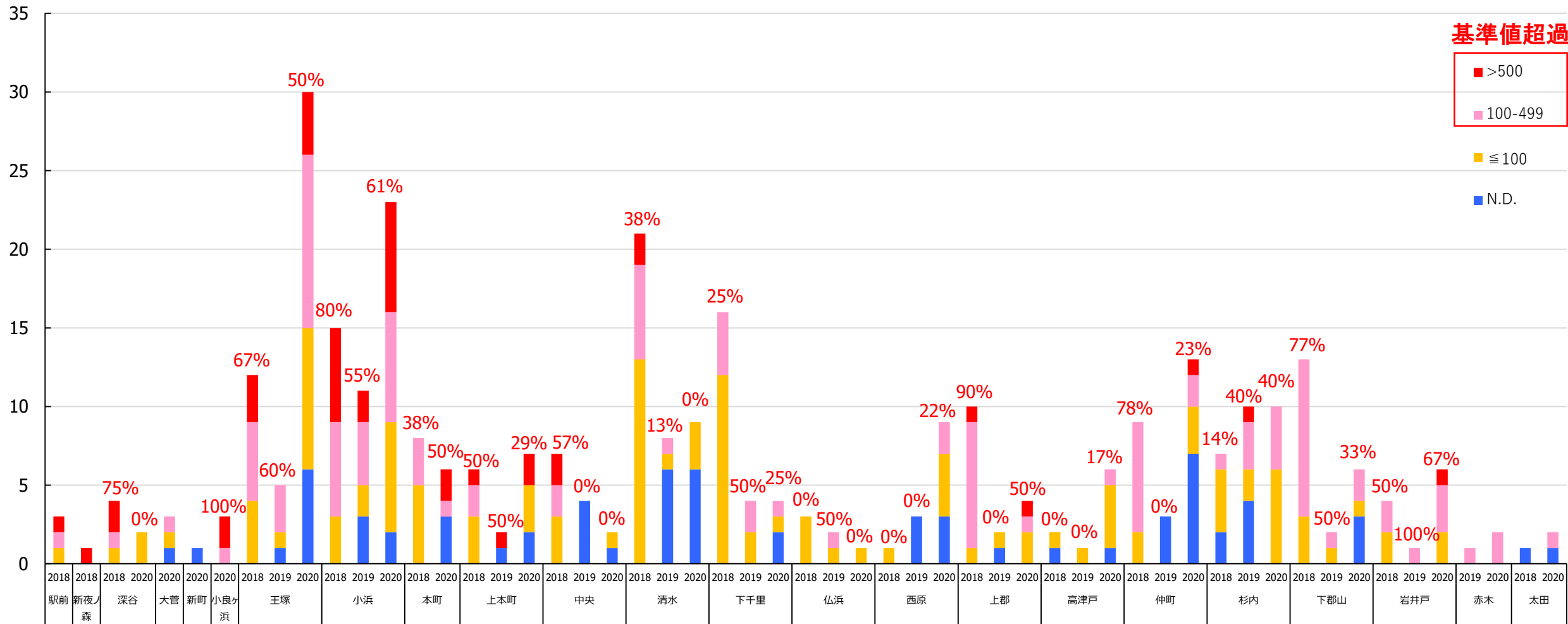
# 山菜種別の放射性セシウムの検出率



【評価】ワラビ、タケノコ、タラノメ及びゼンマイの基準値超過の割合が多い傾向は変わらないものの、ワラビ及びタラノメについては、中央値の経年変化から線量が低減化している印象。また、コシアブラについては、林野庁が採取にあたっての注意喚起をしているとおり、放射性セシウムが蓄積しやすい傾向にあることが確認された(蓄積メカニズムについては不明で、調査研究中)。一方、ウド及びフキについては、継続して放射性セシウムの蓄積傾向は認められない。

# 採取地点別の放射性セシウムの分布

試料数



【評価】 試料数にばらつきがあり不確かさが大きいいため、正確な評価は難しい。現時点では、採取地点(地区)と放射性セシウムとの強い関係性(特定の地点に放射性セシウムが集積している等の地域特性)は認められない印象。

# まとめ

過去3ヶ年の推移から、山菜に含まれる放射性セシウムの分布傾向については、以下のことが示唆される。

- 全体としては、放射性セシウム濃度(線量)の低減化の傾向が認められる。
- 放射性セシウムの蓄積傾向は、**品種**によって大きく異なる。
  - >>> タケノコ及びゼンマイについては、基準値超過の割合が依然高く、中央値も100Bq/kgを超過している。
  - >>> ワラビ及びタラノメについては、基準値超過の割合が比較的高い状況が継続しているものの、経年的にその割合や中央値の低減化傾向が認められる。
  - >>> 一方、ウド及びフキについては、放射性セシウムの蓄積傾向は認められない。
- 放射性セシウムの蓄積傾向は、採取場所による地域差は認められない(試料数が少なく、ばらつきが大きい)。継続したフォローが必要である。
- ◎ 山菜は、山林、山道、沿道、住居付近の竹林等の除染が十分に進んでいない場所から採取されることが多いため、採取地点による地域差(事故直後の汚染度に依存)が考えられるにもかかわらず、現時点ではその特徴は強く認められない。むしろ、**品種による放射性セシウムの蓄積傾向の違い(取り込み機構の違い)**に依存しているものと考えられる。